

岐阜県現代陶芸美術館 夏のコレクション展示



明治 150 年記念

近代の美濃陶芸 1 明治期の革新日本の陶芸：器諸相 1950's-60's物語のイタリア

上：西浦圓治（五代） 《上絵金彩染付四季図大長頸壺》

明治時代前期－中期

中：フェデリコ・ボナルディ 《母さん》 1985 年

下：富本 憲吉 《色絵金銀彩四弁花模様飾壺》 1960 年

すべて岐阜県現代陶芸美術館蔵

岐阜県現代陶芸美術館では、下記のとおり夏のコレクション展示を開催いたします。
貴媒体での取材や周知のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

【展覧会基本情報】

◆展覧会名	・「明治 150 年記念 近代の美濃陶芸 I 明治期の革新」 ・「日本の陶芸：器諸相 1950's-60's」 ・「物語のイタリア」	(展示室 D) (展示室 B・C) (展示室 A)
◆主催	岐阜県現代陶芸美術館	
◆会場	岐阜県現代陶芸美術館 ギャラリー II	
◆会期	2018 年 4 月 14 日 (土) ~ 8 月 19 日 (日) [「物語のイタリア」のみ 6 月 23 日 (土) ~ 8 月 19 日 (日)]	
◆休館日	月曜日 (ただし 7 月 16 日は開館)、7 月 17 日 (火)	
◆開館時間	午前 10 時 ~ 午後 6 時 (入館は午後 5 時 30 分まで)	
◆観覧料	一般 330 円 (270 円)、大学生 220 円 (160 円)、高校生以下無料 * () 内は 20 名以上の団体料金 * 障がい者手帳をお持ちの方および付き添いの方 1 名まで無料	
◆関連企画	学芸員によるギャラリートーク 2018 年 7 月 22 日 (日)、8 月 19 日 (日) 各回 14:00 ~ (約 30 分) ※展覧会観覧券が必要です。	

D 室： 明治 150 年記念 近代の美濃陶芸 I 明治期の革新

◆ 展覧会について

本展は、**近代の美濃陶芸**を振り返る展覧会の第 1 弾として、その**明治期における革新**に注目し、ご紹介するものです。明治期の美濃を代表する作品を取り上げ、特に西洋のアール・ヌーヴォーの潮流と日本の伝統を融合させた、**釉下彩**（釉薬の下、すなわち成形した素地の上に絵具で文様を描く加飾法）の作品にスポットを当てます。また、美濃における革新の歩みを、摺絵、銅版転写、釉下彩等の**技法**からも振り返ります。あわせて、同時期における国内の優れた作例を展示し、美濃陶芸と対照させます。明治期における、郷土ゆかりの陶芸の歩みと成果をご覧ください。

※平成 30 年度には全国で、明治以降の歩みを次世代に遺し、明治期の精神に学ぶ、「明治 150 年記念」事業が展開されます。岐阜県では「ふるさと岐阜 近代文化・芸術の誕生と中山道」というテーマで、岐阜県ゆかりの偉人たちが日本の近代化に貢献した足跡を辿り、顕彰します。本展覧会は、その第 1 部「近代文化・芸術の誕生と変遷」の一部をなすものです。

◆ ここがみどころ

・ 明治期の美濃陶芸が起こした「技術革新」

美濃陶芸は、海外への輸出を目指すなかで、さまざまな技術の革新を行い、変容を遂げてきました。本展では、釉下彩をはじめとした、当時の「最新技法」をもとに制作された作品を展示します。

・ 明治陶芸の全国的な動きに注目

明治期の美濃陶芸を中心に、同時代の初代宮川香山（横浜）や香蘭社（有田）の作品も展示。各地が切磋琢磨をして高みを目指した明治期の雰囲気を感じ取れることでしょう。

◆ 出品作家：西浦圓治（五代）、加藤五輔、宮川香山（初代） 他

◆ 出品点数：22 点

B・C 室： 日本の陶芸：器諸相 1950's－60's

◆ 展覧会について

八木一夫や山田光、鈴木治らによって前衛陶芸集団「走泥社」が 1948 年に発足して以降、器からはなれた形を
探る前衛陶芸の動きが注目されます。その一方、文化財保護法が制定され（1950 年、54 年改正）、1955 年からは重要無形文化財保持者（いわゆる「人間国宝」）認定が始まります。さらにデザインの分野でも、1957 年からは「G マーク」のシンボルマークで知られるグッドデザイン賞が開始するなど、ここでは、さまざまな新しい動きが交錯する 1950 年代から 60 年代に生み出された日本の陶芸の姿を、「器」という視点で当館のコレクションより紹介します。これらの作品には、当館の「個人作家」「実用陶磁器」「産業陶磁器」というコレクションの 3 本柱もあらわれています。器をめぐるのさまざまなやきものの姿をお楽しみください。

◆ ここがみどころ

・ 前衛陶芸の作家から人間国宝の作品、鑑賞の器から実用の器と、さまざまな立場からの制作にむけた視点をごらんいただけます。

・ 新収蔵品（平成 29 年度収蔵）の「粉引茶碗 銘ふじの高根」（かわき たはんでいし川喜田半泥子 作）も初公開。

◆ 出品作家

山田光、金重陶陽、川喜田半泥子、荒川豊蔵、森正洋、加藤孝造、富本憲吉、門工房、伊藤慶二、河井寛次郎、加守田章二、河本五郎、濱田庄司

◆ 出品点数：14 点

A室： 物語のイタリア

◆展覧会について

ヨーロッパ南西部に位置する国イタリアは、地中海に囲まれた豊かな土壌と歴史を持つ国です。14世紀以降盛んとなる色鮮やかなマヨリカ焼の伝統を持ち、また国内最大の窯業地として知られるファエンツァの町では1938年から国際陶磁器コンペティションが開催されているなど、現在に至るまでやきものと深く深い関係を持つ国でもあります。

イタリアの統一国家としての歴史は意外にも浅く、長らく地方統治が盛んであったこの国では、それぞれの都市の歴史や、その礎となる**神話や物語**が、身近で大切なものとして受け継がれていました。こうした神話や物語は芸術作品のモチーフとなり、現代陶芸のシーンにおいても主要な表現のひとつとなります。

本展は、当館コレクションのイタリア現代陶芸をその物語性に注目して展示するものです。

古典古代の建築に着想を求めたニーノ・カルーソ、幼少期に祖母や母から聞いた**おとぎ話**を創造の源泉としたフェデリコ・ボナルディ、イタリアにおける**彫刻の伝統**に向き合い、表現豊かな身体性をモチーフとするアルド・ロンティーニなど、豊かな歴史を背景に作品をつむぎだす作家を中心として、さまざまな物語を想起させる作品をご紹介します。

◆出品作家：カルロ・ザウリ、ニーノ・カルーソ、カルロス・カルレ、アルド・ロンティーニ、フェデリコ・ボナルディ、ジョヴァンニ・チマッティ、セルジオ・グリゴリ、ロマノ・マッチーニ、マウロ・タムピエリ

◆出品点数：17点

◆関連企画

・びじゅつかんでおはなし会 物語のイタリア

日時：7月15日（日）14:00-15:00

会場：岐阜県現代陶芸美術館ギャラリーII

コレクション展「物語のイタリア」の作品をみんなで鑑賞し、そこから連想される絵本のよみきかせを行います。

協力：多治見市図書館

参加無料・事前申込不要・要観覧券（高校生以下は無料）

・おやこ鑑賞会 わたしのすきなあの作品

日時：8月4日（土）14:00-15:00

会場：岐阜県現代陶芸美術館ギャラリーII

対象：小学生以上のお子さんとその保護者

「物語のイタリア」展を親子で鑑賞します。

すきな作品について、一緒にみて、話すきっかけをつくる鑑賞会です。

参加無料・事前申込不要・要観覧券（高校生以下は無料）

コレクション展

日本：器諸相 1950's-60's
近代の美濃陶芸 1 明治期の革新

広報用写真

読者プレゼント用チケット 申込書

FAX：0572-28-3101

担当 岡田・水野

読者用プレゼントチケット(5組10名様分)を希望します。*希望される方はチェックをいれてください。

「コレクション展」の広報用写真(データ)を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、上記FAX番号までお申し込みください。ご希望の写真にをいれてください。

日本の陶芸：器諸相



1. 富本 憲吉
《色絵金銀彩四弁花模様飾壺》
1960年
岐阜県現代陶芸美術館蔵



2. 山田 光
《二つの口の壺》1952年
岐阜県現代陶芸美術館蔵



3. 河井 寛次郎
《碧釉貼文手壺》1965年
岐阜県現代陶芸美術館蔵

近代の美濃陶芸 1 明治期の革新



4. 西浦 圓治(五代)
《上絵金彩染付四季図大長頸壺》
明治時代前期-中期
岐阜県現代陶芸美術館蔵



5. 西浦 圓治(五代)
《釉下彩銀杏文水注》明治時代
多治見市美濃焼ミュージアム蔵
電燈所た襴コレクション



6. 宮川 香山(初代)
《浮彫蓮子白鷺翡翠図花瓶》
明治時代前期
岐阜県現代陶芸美術館蔵

貴社名 (ご担当者) _____

ご住所 〒 _____

お電話 _____ FAX _____

E-mail _____

掲載媒体名 _____

題目 _____ 記載予定日 _____

備考 _____

- 写真・画像のご使用は本展覧会をご紹介いただける場合に限りさせていただきます。
- 使用時には、クレジットを含む上記キャプションの明記をお願いします。
- デジタル画像は全て jpg です。ご送付の手段については原則としてメール送信(画像サイズは1点300~500KB程度)となります。
- 大きなサイズの画像をご入用の場合は、担当までご連絡ください。
- 内容確認のため、校正原稿をお送りください。
- ご掲載紙・誌を1部当館までご送付いただければ幸いに存じます。

 **岐阜県現代陶芸美術館**
Museum of Modern Ceramic Art, Gifu
〒507-0801 多治見市東町 4-2-5

TEL：0572-28-3100
FAX：0572-28-3101
展覧会担当 岡田 潔
写真データ貸出 水野利香